

(別紙4(2))
目標達成計画

事業所名 : グループホーム 清流

作成日 : 平成26年4月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践について 清流としての大きな理念はあるが、具体的な介護理念まで作れておらず、日々のケアに反映されていない。	スタッフみんなで清流の理念に基づく介護理念を考え、それを念頭に置いたケアが実施できる。	カンファレンスの時間を利用し、4・5月に介護理念を検討・決定する。 決定後全スタッフに周知徹底を図り、半年毎に各自自分のケアについての振り返りをしてもらう。	6ヶ月
2	2	○事業所と地域との付き合い 事業所から働きかけが不十分で地域の一員として、日常的な交流などには至っていないが、徐々に交流が生まれてきている段階。	積極的に地域に出向き交流できる機会を多く持つことが出来る。	地域の年間行事を把握する為昭和校区の総会に参加し事前に計画を立てていく。また、清流たよりを創刊する。(4回/年発行)その中で地域の方々にホームの取り組みを知ってもらい、気軽に足を運んで頂ける様な内容を検討する。	12ヶ月
3	26	○チームで作る介護計画とモニタリング 担当制に変更して3ヶ月経過したが、情報十重までしか行えておらずアセスメント・計画立案撫でには至っていない。	担当者がケアプランを基に介護計画書を作成しモニタリング・アセスメントまでできるようになる。利用者本位の統一したケアが提供できるようになる。	4・5・6月に施設ケアマネージャーより介護計画書の作成方法、モニタリング・アセスメントの考え方について研修を受け実践していく。	6ヶ月
4	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 現在のところ終末期の方はいらっしゃらないが、その時に備えて話し合いが必要。	重度化した時のホームの対応を話し合い決定する。また、緊急時や急変時、ターミナル期など落ち着いて対応できるようにする。	終末期について、あらゆる場合を想定しホームで対応可能なケースを検討し決定する。 (4・5月中旬)外部研修・内部研修に積極的に参加し学べる環境を作っていくと共に施設内でもマニュアルを作成し、デモンストレーションなど行い対応していく。	12ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。